

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成23年度病虫害発生予報第5号

平成23年 7月29日  
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	やや少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	並
	紋枯病	—	やや少
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	やや少
	ニカメイガ	やや遅	やや少
	セジロウンカ	—	少
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	—	やや少
	コブノメイガ	—	少
カメムシ類	—	多	
ダイズ	べと病	—	やや多
	紫斑病	—	やや多
	ハスモンヨトウ	並	やや少
モモ	モモハモグリガ	—	並
	ナシヒメシンクイ	—	やや多
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	並	やや少
	褐斑病	—	やや多
	べと病	—	やや多
	ブドウトラカミキリ	—	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	やや多

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	並 並 やや多
トマト	疫病 葉かび病	— —	やや少 やや多
ダイコン	軟腐病	—	やや多
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	並
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — 並	やや少 並 やや少
キク	ナミハダニ	—	並

## 1 普通作物

(水 稲)

### (1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量                      やや少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は27.8%で平年(65.3%)より低かった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では病勢の進展が速いので、早期発見に努める。

### (2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量                      並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、県北部及び中部地帯の葉いもちの発生圃場率は32.9%で平年(44.4%)よりやや低かった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

### (3) 紋枯病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は2.2%で平年（39.3%）より低く、発生程度も低い圃場が多かった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

#### (4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

#### (5) 穂枯れ（ごま葉枯病菌による穂枯れ：早生種、中生種）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は13.3%で平年（20.5%）よりやや低かった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、発生を助長する条件ではない。

#### (6) ニカメイガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0.2頭)より少なかった。

イ. 7月25～26日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

#### (7) セジロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、1頭で平年(210.9頭)より少なかった。

イ. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は11.1%で平年（60.3%）より低く、すくい取り（20回振り）調査による成幼虫の発生量は0.9頭で平年（28.0頭）より少なかった。

#### (8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並  
発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯において、7月5半旬までに飛来は認められず、平年（0頭）並であった。

イ. 7月25～26日の巡回調査において発生を認めなかった。

(9) イチモンジセセリ（第2世代幼虫）

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は4.4%で平年（10.8%）より低く、発生程度は平年並であった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又はやや多いとされており本虫の増殖を助長する条件ではない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月25～26日の巡回調査によると、発生圃場率は1.1%で平年（55.2%）より低かった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又はやや多いとされており本虫の増殖を助長する条件ではない。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における6月6半旬から7月4半旬までのアカスジカスミカメの誘殺数は747頭で平年（301.1頭）より多かった。

イ. 7月21日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査（20回振り）によると、アカスジカスミカメの成虫数は471.8頭で平年（103.3頭）より多かった。

イ. 平成23年度病害虫発生予察注意報第1号参照。

(防除上の参考事項)

ア. 発生源であるイネ科植物からの飛来を防ぐため、水稻の出穂2週間前から出穂3週間後の間は、水田周辺の除草を行わない。

(ダ イ ズ)

(1) べと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は233頭で、平年（303.6頭）よりやや少なかった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並で、降水量は平年並又は多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年（120.9頭）より少なかった。

イ. 7月15、25日の巡回調査によると発生圃場率は5.4%で平年（2.8%）よりやや高かった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又はやや多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は115頭で、平年（83.9頭）よりやや多かった。

イ. 7月15、25日の巡回調査によると、発生圃場率は59.5%で平年（47.4%）よりやや高かった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又はやや多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月15、25日の巡回調査によると、発生圃場率は43.2%で平年（29.4%）よりやや高かった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又はやや多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並  
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 7月15、25日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。
- イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は34.0%で平年(41.9%)並であった。
- イ. 7月15、25日の巡回調査によると、発生程度は平年並であった。
- ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は31.7%で平年(52.7%)よりやや低かった。
- イ. 7月15、25日の巡回調査によると、発生圃場率は71.4%で平年(53.5%)よりやや高かった。
- ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には発生を助長する条件となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 7月15、25日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 7月15、25日の巡回調査によると、発生圃場率は13.3%で平年(6.3%)より高かった。
- イ. 発生程度は平年並に低かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は28.0%で、平年(48.1%)よりやや低かった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は58.3%で平年(65.5%)並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は4.9%で、平年(10.2%)よりやや低かった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(25.1%)並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は26.2%で平年(7.6%)より高かった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(59.4%)並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並で、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月21～22日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(4.0%)より低かった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条件となる。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月22日の県予察圃場での発病葉率は14.4%で、平年（過去6年間の  
平均値1.4%）より高かった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年（16.7  
%）並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並  
又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条  
件となる。

（ダイコン）

（1）軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で平年（32.7  
%）並であった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並  
又は多いとされており、降水量が多い場合には本病の発生を助長する条  
件となる。

（アブラナ科野菜）

（1）キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並  
又は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

（野菜共通）

（1）アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は19頭  
で平年（63.6頭）より少なかった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生は平年並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並  
又は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

（2）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での

発生量は平年並であった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期                    並  
発生量                      やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は233頭で、平年（303.6頭）よりやや少なかった。

イ. 7月21～22日の巡回調査によると、発生は平年並であった。

ウ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、本虫の増殖を助長する条件ではない。

4 花き類

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量                      並

予報の根拠

ア. 7月21～22日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%で平年（18.0%）並であった。

イ. 7月22日の季節予報によると、8月の気温は平年並、降水量は平年並又は多いとされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病虫害発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病虫害防除所ホームページをご利用ください。